

| | |
|-------|-------------------------------------|
| コース | B コース |
| プログラム | ビクトリア大学 Summer Language and Culture |
| 渡航国 | カナダ |
| 渡航期間 | 4 週間 |
| 所属学部 | 国際教養学部 |

この報告書では、3つのパートに分けて私の思いを伝えたいと思います。

まず、私がこのプログラムを全力で楽しむために努力したこと、心がけていたことを紹介します。私は常に、"Talk with as much people as I can"を意識して生活していました。大学のアクティビティに参加している時はもちろん、授業が始まる前や授業外のちょっととした時間でも、誰にでも自分から話しかけ、会話をするようにしていました。話したことのない人でも、会話を始めればお互いのことを知ることができますし、友達の輪が広がります。そして何より、語学力の向上にも繋がります。授業はもちろんすべて英語ですが、異なる国から来ている友達やプログラムのアシスタントの方と会話することで授業外の時間でも常に英語を使っていました。また、"Make the most of time here"ということも意識して生活しました。1か月という限られた時間の中で、プログラムを精一杯楽しみたいと思っていたので、多くの人と交流できる機会でもある大学のアクティビティに積極的に参加しました。友達と一緒に全力で楽しむことができました。

次に、私がこのプログラムを通して学んだこと・身に付けたことを紹介します。まず初めに、クラスティーチャーが最後の授業で私たちに向かって言った言葉を紹介します。"Don't let your confidence go. Just keep it with you. As long as you have it, you can do whatever you want. Just love the way you are." このプログラム・授業を通して、自分に多くの自信を身に付けることができました。英語で自分の考えを伝えたり、相手を説得させたり、友達と語り合ったりした経験が、自分の英語力、さらにはコミュニケーション力に自信をつけてくれました。また、異なる国から来ている様々な文化を持つ人と交流し、多くの考えを学んだことで、自分の視野が格段と広がったことを実感しています。授業内では、人種差別の歴史について学んだり、世界を動かした活動家たちについて学んだり、本を読んでグループでディスカッションをしたりして、学んだことを活かしながら意見交換を活発に行うことができました。授業内でディスカッションを重ねることはクラスメイトのことを深く知ることにも繋がりました。クラスメイトの中には社会人の人もいて、幅広い視点を肌身で感じることができました。様々なバックグラウンドを持つ友達との会話からも学ぶことはたくさんあり、異文化交流の楽しさを改めて実感しました。見える世界が広がり、「価値観に正解・不正解

なんてない」ということを、身をもって学び続けた1か月でした。そして、自信を持つことの大切さ、ありのままの自分を愛することの大切さを深く実感した期間でもありました。

最後に、これから2Q留学を考えている人に向けたアドバイスを書きたいと思います。まず1つ目は、「プログラム期間を全力で楽しむこと！」です。特に2Q留学の期間は1か月前後が多いと思います。1か月という時間は、本当にあつという間に過ぎ去ります！日本に帰ってから「もっと○○しとけばよかった。。。」と後悔することのないように、限られた時間を全力で楽しんでください！そうすれば、一瞬一瞬が、かけがえのない一生の思い出になります。勉強にアクティビティに観光に遊び、、、どの瞬間も本気で楽しんでほしいです。ただし、帰国準備は余裕を持って行うべきです！今はコロナの影響もあって何かと手続きが必要です。パッキング時は、何を手放すかの選択に追いやられます。お土産を大量に買った際には、前もって荷造りを進めておきましょう。

2つ目は「多くの友達を作ること！」です。話しかけるのに躊躇していくては、友達の輪は広がりません。英語に自信が無くても、まずはとにかく話しかけることが大事だと思います。話し相手を作ることが語学力向上の一番の近道です！さらに、異なる文化を持つ友達・人の交流は、自分の世界を大きく変えます。今まで見えていなかった世界が見えるようになります！いろいろなバックグラウンドを持つ友達との交流を大切にしてください！

3つ目は、「何事にも自分から！の姿勢で挑むこと」です。発言、会話、行動、アクティビティなどなど、自分から動くことが大事だと思います。間違いは自分の成長に繋がります。間違えることを恐れず、何事にも挑戦しきって欲しいです！

1ヶ月の経験が自分を大きく変えました。友達、先生にも恵まれ、かけがえのない時間を過ごすことができました。この留学経験を機に、長期の留学も視野に入れるようになりました。これから大学生活では、この経験で身に付けたこと・学んだことを最大限に活かしていきたいです。

| | |
|-------|-------------------------------------|
| コース | B コース |
| プログラム | ビクトリア大学 Summer Language and Culture |
| 渡航国 | カナダ |
| 渡航期間 | 6 週間 |
| 所属学部 | 国際教養学部 |

7月10日からの6週間、ビクトリア大学のSummer language and Culture プログラムに参加しました。私がこのプログラムに参加した動機は、大学生のうちに一度留学の経験をしておきたかったことと、自身が大学で専門分野として研究している学問に関連して、多文化共生の進んでいるイメージのあるカナダに行きたいと考えていたからです。また、このSummer language and Culture を選択したのは、英語の語学研修と並行して行われるアクティビティを通して、文化など現地のことについて知ることができることに魅力を感じたからです。ビクトリア大学での6週間はとても有意義で充実しており、時間はあっという間に過ぎていきました。

このプログラムに参加するにあたって私が最も大切にしていたことは、後悔しないように行動するということです。これまで自身の心配性な性格が仇となり、長時間悩んだ末、何も行動を起こすことができずに後悔するといったことが多くありました。今回この目標を立てて、積極的に行動した結果、貴重な経験と沢山の素敵な思い出を手に入れることができました。

第一に、多くの友人と出会えたことです。この6週間のプログラムは他のものより人数が少なく、全員で50人ほどでしたが、日本の大学の夏休み期間だったということと他の大学の留学プログラムと重なってしまったこともあり、そのほとんどが日本人でした。最初はせっかく海外に来たにもかかわらず、プログラム中に外国人と関わる機会が少ないとショックを受けましたが、他のプログラムの生徒と交流できるアクティビティに積極的に参加したところ、韓国やインド出身の友人ができました。短い間でしたが、共有スペースでのゲームやお喋り、ショッピングモールに行って買い物をするなど、一緒に思い出を作ることができました。また、新たにできた日本人の友達とは生活の大半を共に過ごしていましたのですが、授業の課題や現地での生活で何か困ったことがあった時などに頻繁に助けてもらいました。海外へ行った経験が一度もなかった私とは異なり、ほとんどの友人が渡航経験ありだったので、何度も頼ってしまいました。国籍関係なく、このプログラムに参加していなかったら、きっと出会っていなかっただろう人たちと新たな縁を作ることができたのは、とても大きな出来事でした。

第二に、コミュニケーションのための英語の能力を身に着けることができたことです。これまで日本以外の国に行った経験がなかった私にとって、日常生活のあらゆる場所で英語を使う、特に「話す」ということは楽しくもあり同時に最初の大きな壁となりました。例えばスーパーで欲しい商品を見つけられず、その場所を聞くということだけでも、私にとってはとても勇気がいることでした。ですが、自分が知っている単語や文法を総動員し、一生懸命伝えようという姿勢を見せると、現地の方は優しく対応してくださりました。その体験を少しづつ積み重ねていったことで次第に自信が付き、英語での会話を楽しむことができるようになりました。プログラム中には毎日午前中に授業が2コマ分あったのですが、英語で軽いディスカッションをしたり、日常会話の練習をしたりするといった内容はスピーキングスキルを向上させるためにとても効果的なものでした。私は学術的な英語のスキルよりも日常会話のスキルを身に付けたかったので、この授業カリキュラムにとても満足しています。担任の先生方は、私が何度質問をしても優しく回答をしてくれたり、意欲的に英語学習に取り組むことができました。

最後に、今回のプログラムを通して、自分は人に恵まれているのだということを強く感じました。先述した友人たちもそうですが、アクティビティを進めてくれる CA (Cultural Assistant) の方や、クラスの担任の先生方、毎日食事を買いに行っていたカフェテリアの店員さんなど、自分に関わる全ての方が良くしてくださったおかげで、この6週間毎日充実した生活ができたのだと思います。プログラムの終盤には、パスポートを紛失するという大事件を起こしてしまったのですが、ビクトリア大学のスタッフの方にとても助けていただきました。帰国直前でパニックになっていたところを、日本語が堪能な Rena さんや、Deborah さん、バンクーバーにある領事館まで一緒に付き添ってくださった Dana さんが親身になってあらゆる手続きを一緒にしてくださったお陰で、無事に日本に帰るための一時的措置を受けることができ、非常に感謝しています。

この貴重な経験で得たことをこれから的人生の糧とし、また新たに出会うことができた縁を今後も大切にしていきたいと思います。

| | |
|-------|-------------------------------------|
| コース | B コース |
| プログラム | ビクトリア大学 Summer Language and Culture |
| 渡航国 | カナダ |
| 渡航期間 | 4 週間 |
| 所属学部 | 国際商学部 |

今回、私は横浜市立大学 2 クオータープログラムの「ビクトリア大学 8 月 4 週間」に参加してきた。「Language and Culture Program」というプログラムであり、英会話コミュニケーション、そしてカナダの文化について多く学んだ。

結論から言うと、本当にこのプログラムに参加して良かったと、心から感じることのできる内容であった。私は、もともと留学がしたくて横浜市立大学に入学した。しかし、新型コロナウイルスの影響で 1, 2 年次は留学に行くことが出来なかった。2 年間も留学に行けなかったため、3 年生になったときは、正直海外に対するモチベーションはかなり下がっていた。しかし、両親の勧めもあり今回このプログラムに参加したが、これほど充実した 1 か月を過ごせるとは思っていなかった。

今回のプログラムで私が一番印象残っているのは、カナダの人の礼儀正しさ、人柄の良さ、温かさである。私自身、初めての海外であったためおそらく日本人ほど親切ではないだろう、と正直考えていた。しかし、大学のスタッフや講師の方々、バスの運転手、ショッップの店員さんだけでなく、街を歩いている現地の方々も、質問しても親身になって聞いてくれ、礼儀を重んじる人ばかりだった。こんな温かい人ばかりに囲まれて生活していた自分も、心が浄化されていく気分になり、こんな環境にずっと身を置いていたいと感じていた。また、プログラムの授業内でも「カナダの人は礼儀正しさを重んじており、謝罪や感謝の言葉を忘れない、これはとても大事なことである。」と講師の方がおっしゃっており、親切さや礼儀正しさを大切にすることが普通になっているカナダに、衝撃と感銘を受けた。

また、ビクトリア大学の土地とキャンパスもとても印象に残っている。バンクーバー島と南東であるビクトリアは、自然が多くとてもどかな町であると感じた。また、ビクトリア大学のキャンパスも、とても居心地のいい野原や広大な図書館、新設のカフェテリアなど体験したことのない広さで感動した。また昼過ぎになれば、学校内ではリスや鹿、ウサギや孔雀などがキャンパス内を歩いており、夜になれば狸の家族が顔を出していた。横浜市立大学では、考えられないくらいたくさんの動物と日常をともにすることが出来た。

キャンパスの施設の中でも、特に私が印象に残っているのはスポーツジム（CARSA）である。ジムの中には、豊富なマシンだけでなく、広大な体育館やスカッシュコート、北アメリカ大陸で2番目の高さを誇るクライミング施設がある。私はこの4週間、ほとんど毎日ジムに通ってトレーニングをしていた。日本にいるときは、めったに運動していなかったため、カナダでは健康的な生活を送ることが出来た。また、ジムが印象に残っている理由は、ビクトリア大学での生活のほとんどを共にした、韓国人の友人と出会えた場所であったからである。

私は、現地で日本人の子と一緒にいても英語力は上達しないと考えていたため、この子と出会えたことは自分の中でとても大きかった。正直、自分よりも英語力のある人と多くの時間を過ごしたり、会話をしたりすることは英語力を向上させる上でとても大事なことであると感じた。その人が良く使うセンテンスや発音を真似することで、英語に慣れていくからだ。私が仲良くなった友人も、英語がとても流暢であったため、恥ずかしいなんて気にせずに、自分から質問や他愛もない日常会話を英語で彼にぶつけていた。

次にプログラムの授業内容について話していきたい。プログラム期間中の授業は、平日の8時半から12時半の間で、2回に分けて行われていた。初回の授業に行うテストの結果によってクラス分けが行われるのだが、正直自分のクラスの授業はあっていないと感じていた。クラス替えの機会があると聞いていたが、最後までなかったため少し悔やまれる結果となった。授業内では、基本的な文法や発音の学習はあったが、英会話がメインであると感じた。自分のクラスは日本人が多くたが、日本語は使わず英語での会話を心がけていた。また、講師の発音の仕方をよく聞いて、ネイティブの発音を真似するように心がけていた。授業の内容自体は難しくなかったが、英会話の機会がたくさん設けられるという点では、すごく自分のためになったと感じた。

次に、授業後の毎日のアクティビティについて話していきたい。休日を除いてほぼ毎日、スタッフの方たちが何かしらアクティビティを用意してくれた。カナダの文化の関わるものや、自然と触れ合う時間、観光地の探訪、他プログラムの生徒との交流など、本当に数多くのアクティビティを開いてくれた。私がもっと印象に残っているプログラムは、ダウンタウンにあるボードゲームカフェと、ジャイロビーチで行ったワークショップである。ビクトリアにはボードゲームを楽しめるカフェがあり、海外の伝統的なボードゲームをスマージーやビールを飲みながら楽しむことができた。また、ゲームを行う事で普段よりもコミュニケーションがとりやすくなり、仲を深めることができたのも印象に残っている。またジャイロビーチでのワークショップも記憶に残っている。ビーチで海水浴を楽しむ現地の方々とのコミュニケーション、学生スタッフとの会話を普段以上に楽しむことが出来て、英語の生活に囲まれた気分になっていた。

今回のプログラムを通して、海外に対する印象ががらりと変わった気がした。不安や不満に限らず、感謝や謝罪もすべてさらけ出し、自分らしさを大事にするカナダの人々に心底うらやましさを感じたし、自分に合っていると感じた。セクシュアルマイノリティに対する反応も、日本に比べてオープンであると感じた。本当にこのプログラムに参加して良かった。いつかまた、必ずビクトリアを訪ねたいと思う。